

S008 心理学における GIS と空間情報科学の可能性

企画者	日本大学	羽生和紀
企画者	警察庁科学警察研究所	島田貴仁
司会者	警察庁科学警察研究所	島田貴仁
話題提供者	警察庁科学警察研究所	島田貴仁
話題提供者	東京大学	石川徹#
指定討論者	日本大学	羽生和紀
指定討論者	静岡大学	村越真

概要

空間情報科学は空間的な行動や事象を扱う学問体系であり、GIS（地理情報システム）やGPS（全球測位システム）、空間統計学といった方法論を用いる。空間情報科学の方法論は欧米では1980年代から発展していたが、日本では遅れて1995年の阪神淡路大震災がきっかけとなって急速に普及し、現在では人文社会科学・自然科学の多くの学問分野で、強力なツールとして利用されるようになっている。空間情報科学の手法は、心理学でも、環境と人間とのかかわりを追求する環境心理学のみならず、空間認知やナビゲーションを扱う認知心理学、集団の差異やその伝播過程を扱う社会心理学、若年者や高齢者の行動特性を扱う発達心理学、交通行動を扱う交通心理学など多くの場面で活用可能だと思われる。しかし、日本の心理学では、いわゆる文系理系の壁の存在によって、空間情報科学の方法論の普及は十分でないと思われる。

本シンポジウムは、心理学や関連領域で空間情報科学の方法論を用いて研究している2人の研究事例を報告、討論することで、心理学における空間情報科学の可能性を示し、普及の一助にすることを目的とする。犯罪予防をフィールドとする島田はGISと空間統計学を用いた犯罪発生や住民の社会統制機能の分析について、空間認知をフィールドとする石川は空間的思考や場所情報の視覚化といった空間情報科学の心理学的側面について話題提供を行う。指定討論は空間認知研究に早くからGISを導入してきた村越と環境心理学を専門とする羽生が行う。